

神奈川県南支部のホームページは（[全日本建設交運一般労働組合 \(ctg-kennan.net\)](http://ctg-kennan.net)）をクリックか右のQRコードからアクセスできます。分会・班の仲間は多くの労働者に広げてください。



2024年11月26日

かながわけんなんしふ

建交労神奈川県南支部

2024年秋季年末闘争No.11

2024年度推進ニュース⑤通算 356号

発行責任者 小島 茂

## 建交労2025年春闘中央討論集会開催！

11月23日～24日建交労中央本部は静岡県伊豆長岡で春闘中央討論集会開催しました。当日は、新幹線の遅れや交通渋滞で1時間以上遅れて開会されました。討論集会は足立委員長の主催者挨拶について廣瀬書記長が2025年春闘方針案は提起し、学習会では全労連の黒澤幸一事務局長（左下写真）



が「25国民春闘を如何にたたかうか」と題して講演をおこないました。その後の分散会は全組合参加の運動と要求闘争、組織・拡大強化について5つのグループに別れて討論を行いました。参加人数は80人ほどで神奈川県南支部からは初日の23日に金崎が参加しました。（文と写真は金崎書記長）



討論集会で主催者挨拶を行なう足立執行委員長

## 11.24全国トラック部会第26回総会開催！

全国トラック部会は春闘中央討論集会後の11月24日静岡県伊豆長岡サンバレー富士見で第26回総会を開催しました。参加者は全国から42名が、神奈川県南支部からは小島が参加しました。総会は緒方事務局次長の開会あいさつにはじまり、松澤副部長が議長に選出されて議事が進行されました。

足立部会長は主催者挨拶で「労働組合で1番大事なものは要求実現であり建交労の要求実現闘争の中心体はトラックだ。2025年春闘ではトラック部会が先頭に立って奮闘しよう」と呼びかけました。

鈴木事務局長の議案提案では、4月23日に開かれた参議院国土交通委員会で足立部会長が参考人として出席して部会の政策や考え方を直接国会に求める大変貴重な機会となったと報告がありました。活動方針では、安全・安心なトラック運輸産業をめざし大幅賃上げと長時間労働の改善、組織の強化・拡大をめざす提案がありました。討論では20名が発言し活発な議論がおこなわれました。私からは組織拡大を目指して行っている支部の宣伝行動と労働条件改善に向けた行動について発言しました。総会は2025年度役員体制を含むすべての議案と総会宣言を採択したあと、新旧役員挨拶、足立浩部会長の発声による団結がんばろうで成功裏に閉会しました。



部会総会で発言する小島委員長



総会後に全員が壇上に揃って記念写真

（文は小島委員長、写真は小島委員長と上村誠さん）

## 11/23西田修一さんを偲ぶ会ラパスホールで行わる 西田さん貴重な宝物をありがとうございました。

2021年12月13日享年76歳で永眠された“西田修一さんを偲ぶ会”が東京都豊島区内のラパスホールで11月23日に行われました。西田修一さんは建交労片山組分会執行委員長はじめ建交労全国建設・関連部会部会長などを歴任して多くのたたかう仲間を指導・援助し育ててきました。なかでも西田修一さんのたたかいで特筆すべきは、自らの片山組争議で勝ちとった最高裁判決（高裁判決を差し戻した逆転全面勝利）は、いま現在も病気による退職者の職場復帰を支える重要な判例として生きつづけています。この判決文は「片山組事件最高裁平成10年4月9日第一小法廷判決」を検索すると“最高裁判例集”として全文掲載されていますので興味のある方は一読されることを推奨します。



メーデーで笑顔弾ける西田さん

“偲ぶ会”は、コロナ禍によって遅れていたとのことですが、実行委員会の皆様のご尽力によって開催に漕ぎつけ、当日は西田さんを慕う懐かしい方々との再会もありました。この出席者のなかから15名の方が西田修一さんとの思い出やエピソードを語られました。

こうした方々からの貴重な報告を含めて、“偲ぶ会”に出席する機会を頂いたわたしは西田さんの生前の姿勢に感銘を受けました。それは、西田修一さんの労働組合運動への揺るぎない確信と情熱、仲間への強い信頼と愛情、そして弛みない学習の実践でした。

その西田さんは、自ら関わった仲間のみならず、多くの労働者に、たたかいで獲得した



貴重な宝物を残されました。ありがとうございました。安らかにお眠りください。

写真は、偲ぶ会で西田修一さんとの思い出を語る藤好重泰建交労元中央執行委員長(右)と伊藤東一神奈川県本部執行委員長(左)

(文と写真は赤羽)

## 能登半島被災地への支援カンパのお願い！

2024年も残すところ1カ月余となりました。今年は、元旦に発生した能登半島を中心とする大地震「能登半島地震」という悲しいニュースで幕が開けしました。

また、翌2日には羽田空港で日本航空旅客機と海上保安庁の航空機が滑走路で衝突する重大事故が発生して不安な年明けとなりました。

能登半島では、大震災からの復旧も遅々としてすすまないなか9月には記録的な豪雨に襲われて震災復旧が遅れていた地域を中心に再び甚大な被害に見舞われました。

被災地では相つぐ激甚災害に抗して復旧・復興への努力が続けられていますが、政府の対策の遅れもあって震災関連死の方が後を絶ちません。建交労本部は1月11日付で呼びかけた支援カンパを継続しています。各分会・班は年内でのとりくみをお願いします。



建交労県本部委員長 殿

建交労支部委員長 殿

全日本建設交運一般労働組合(建交労)  
中央執行委員長 角田 隆代



## 「令和6年能登半島地震」被災者支援カンパのよびかけ

全国で奮闘されている建交労のみなさんに呼びかけます。

本年1月1日の夕方4時過ぎに発生した令和6年能登半島地震（能登半島地震）は、M7.6・最大震度7を記録しました。地震発生直後には能登方面の日本海沿岸部で津波が襲いかかり、家屋などが水没し、人的被害を与えました。

石川県では死者202人、安否不明者323人、県内避難所約400ヶ所には約26,000人が身を寄せています。（1月9日現在）その内、珠洲市内、能登町、七尾市に居住する建交労石川県本部に結集する北陸ダンプ支部（1名）、北信越労職支部石川分会（41人）が家屋の全壊、半壊、一部損壊などの被害を受けています。石川分会の組合員1人が亡くなっています。石川県本部の石田直道委員長は分会員たちの状況把握の為に5日から現地入りをしています。

建交労は、被災された仲間と住民の皆さんに心からお見舞い申し上げるとともに今後できる限りの支援をしていくことにします。

1月5日石川県労連内に「支援対策本部」を設置し、全労連は1月10日に“「令和6年能登半島地震・対策支援募金」のとりくみを開始しました。今後現地の状況を掌握したうえで、支援物資の搬入やボランティア派遣など具体的な支援活動を全国的にすすめる方針を確認しました。

建交労は、全労連の確認・提起を受けて「能登半島地震」被災者支援カンパのとりくみを10日に開催した常任執行委員会で確認し、全国の仲間に協力を呼びかけます。各組織の積極的な対応をお願いします。

集約した救援カンパは、以下の金融機関の口座に振り込んでください。

**お手数ですが、振り込みした組織は必ず、メールかFAXで別紙用紙にて随時お知らせ下さい。**

以上

### 【振り込み先】

中央労働金庫新宿支店（普通）3731711

（名義）建交労中央本部

### \* 【郵便振替】

（口座番号）00180-3-25195

（名義）建交労

振込用紙に「震災カンパ」と記入してください

上記へ支援カンパを振り込んだ分会・班及び組合員は神奈川県南支部にご報告ください。